

# 【空知森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



現庁舎

夕張岳（一、六六八m）、芦別岳（一、七二七m）を主峰とし、空知川、幾春別川、夕張川等の集水域となる山地で、トドマツ、エゾマツ、ミスナラ、カンバ類等が混交する天然林を主体とし、一部トドマツ、アカエゾマツ等の人工林で構成されています。また、石狩平野には、防風保安林が格子状に配置されています。

## 【現庁舎の変遷】

空知森林管理署は、岩見沢市に所在し、石狩空知森林計画区の夕張山系地域の6市5町に広がる、約16万4千haの国有林野の管理経営をしています。

昭和5年の岩見沢市街地図によれば、岩見沢市4条東2丁目に現在の森林管理署にあたる「森林事務署」が記載されており、昭和7年に木造平屋で新築されました。時代が流れ昭和

22年に、営林署になってからも同じ場所にあり、昭和33年には増築されました。しかし都市化とともに狭隘となり昭和39年に現在の岩見沢市三条東一七丁目に移転新築、さらに建物の老朽化により平成17年に空知森林管理署を新築し、現在に至ります。

## 【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、北海道産のトドマツ、カラマツなどの針葉樹やナラ、カンバなどの広葉樹を一〇〇%使用し、木の良さを十分にいかしたつくりとなっています。岩見沢市は道内有数の多雪地帯であることから、雪対策を重視した設計となっており、屋根等は落雪方向を考慮し、ポーチ・階段・スロープは降雪時の利便性に配慮しています。執務空間である事務室は、家具等の配置の自由度を高めるために、構造用集成材を使用した無柱の設計となっています。

ます。木製の事務机が配置されるとともにフロア全体を見通せるようになっていきます。署長室の床にはナラ材を用いて重みのある雰囲気を作り出し、廊下の内壁はシナとカンバで作られています。



カラマツ集成材の梁

## 【玄関ホール】

明るく温かみのある正面玄関ホールの開閉部は断熱性に優れた構造になっており、訪れる来客者の方に木材の良さを感じていただくためのスペースになっています。空知森林管理署の概要をはじめ、広報誌や各種

パンフレットや冊子など手に取っていただきやすいように配置しています。

その他展示用ショーケースの中には「花台」「ティッシュボックスケース」「ネクタイピン」など往時に在職していた職員手製の木製品が多数並べられており目を楽しませてくれますので、お立ち寄りの際はぜひご覧になっていただきたいと思えます。

これからも地元で愛される地域の森林・林業の活性化に貢献できる森林管理署として、理解を得られるよう取り組んでいきます。



庁舎内玄関の「ショーケース」